

令和5年度版いるましの環境 第三次入間市環境基本計画環境報告書に対して寄せられた意見と市の考え方

入間市では、令和5年12月1日から令和5年12月28日までの期間で、令和4年度における入間市の環境の現状と「第三次入間市環境基本計画」に基づいた指標の評価を年次報告書としてまとめた、「令和5年度版いるましの環境 第三次入間市環境基本計画環境報告書」に関して、市民のみなさまの意見募集を行いました。その結果、1人の方から1件のご意見が寄せられました。寄せられたご意見と、それに対する市の考え方は次の通りです。

No.	箇所	ご意見等	市の考え方(対応)
1	30 ページ	<p>公園配置・・・</p> <p>大きな公園の整備は必要で、新設も大事であり、市としては、達成感もあると思うが、時間と費用がかかり公園不足の対応としては、少子化対策も考えると、間に合わないと思う。</p> <p>今、必要なのは、将来の立派な公園ではなく、各地域にあり、住民になじんできた、身近な小公園の整備が先だと考えている。</p> <p>小公園の数は多いが、ある時期一斉に遊具の撤去が始まり、ただの原っぱになってしまった所も多い。「危険」と言うが、社会生活の中に潜む、多くの要因を総合的に判断しないで、拙速に対応した感がある。</p> <p>小さい子供たちにとっては、滑り台、シーソー、ブランコなどは遊びたい遊具であり、無ければ公園に集まらず、公園には草が生い茂るだけで、中で遊ばず、路上や住宅街の隙間で遊んでおり、遊び、同じ地域、町内の子供同士の繋がりも薄くなる。</p> <p>住宅街の小公園は、子ども達が集まりやすく、何かあっても周囲の目が届き、防犯にも役立つと思う。</p> <p>また、健康の為に歩いたり走ったりしている高齢者にとっても休む場所ではなく、せめてベンチがあれば良いと思う。(周囲の方に聞いたご意見でもある。)</p> <p>特に、赤ちゃんや幼児をつれたお母さんにとっては、ベビーカーや自転車が必要であり、高齢者のシルバーカーでも大きな通りを渡って遠くの立派な公園まで行くのも危ないし疲れる。</p> <p>地域の人々の繋がりが薄くなってきたような感もあるが、改めて集会所に集まって何かをやるのではなく、小公園でのちょっとした会話の集まりの方が、人間関係には効果があると思う。</p>	<p>ご提示いただいたご意見は、報告書に関する意見とは異なりますので、関係部署に報告し、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>